

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-125745

(43)公開日 平成7年(1995)5月16日

(51)Int.Cl.⁶
B 65 D 5/497
5/50
25/04

識別記号
101 Z
C

F I

技術表示箇所

B 65 D 5/ 48 101 K

審査請求 未請求 請求項の数 4 OL (全 11 頁)

(21)出願番号

特願平5-264474

(22)出願日

平成5年(1993)10月22日

(71)出願人 000001904

サントリー株式会社

大阪府大阪市北区堂島浜2丁目1番40号

(72)発明者 中野 友春

神奈川県川崎市多摩区布田32-22

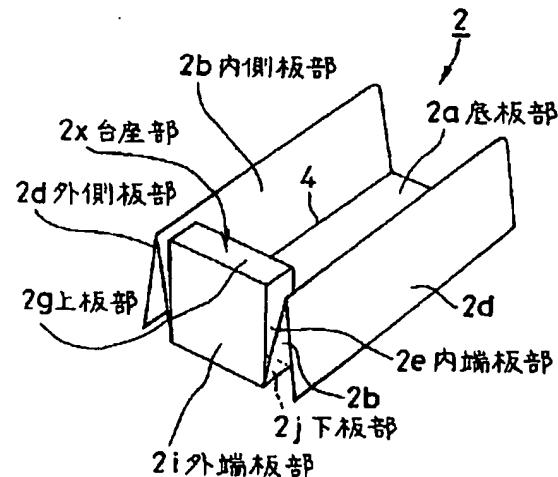
(74)代理人 弁理士 志賀 富士弥 (外1名)

(54)【発明の名称】 化粧箱の共用中仕切り

(57)【要約】

【目的】 中仕切りの一部を切り離す構造とすることで瓶の高さ及び胴径に合わせるように寸法調整可能とすることにより、異なる瓶形状であっても同一の化粧箱内に収納できるようにし、よって、内箱とその蓋体となる外箱とを共用できるようにした中仕切りを提供する。

【構成】 内箱1に外箱を上方から被せて蓋体とする一方、前記内箱1に瓶首固定部を有する仕切り体を収納してなる化粧箱において、瓶首保持体と底板部とからなる瓶首枕と、瓶胴が当接する底板部2aと内側板部2b及び瓶底が当接する内端板部2eとさらにこれに統いて延設される上板部2g、外端板部2i、下板部2jとで断面口状に折り込まれて形成される台座部2xを有する中仕切りとを備え、前記内側板部2bと台座部2xを切除するための切り取り線を、内側板部2bと底板部2a及び台座部2xの内端板部2eと底板部2aとの折れ線に沿って形成して構成した。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 内箱に外箱を上方から被せて蓋体とする一方、前記内箱に瓶首固定部を有する仕切り体を収納してなる化粧箱において、瓶首保持体と底板部とからなる瓶首枕と、瓶胴が当接する底板部と瓶底が当接する内端板部とさらにこれに統いて延設される上板部、外端板部、下板部とで断面口状に折り込まれて形成される台座部を有する中仕切りとを備え、前記中仕切りに台座部を切除するための切り取り線を台座部の内端板部と底板部との折れ線に沿って形成したことを特徴とする化粧箱の共用中仕切り。

【請求項2】 請求項1記載の中仕切りであって、底板部の左右両側に延設されて瓶胴が当接する左右側板部がそれぞれ内側板部と外側板部とからなり、前記左右側板部を切除するための切り取り線を、前記底板部と内側板部との折れ線に沿って形成したことを特徴とする化粧箱の共用中仕切り。

【請求項3】 請求項2記載の中仕切りであって、左右側板部の外側板部を切除するための切り取り線を、前記左右側板部の外側板部と内側板部との頂部の折れ線に沿って形成したことを特徴とする化粧箱の共用中仕切り。

【請求項4】 請求項1記載の中仕切りであって、内箱内の中央部において、中央に一対で形成された折れ線で左右両側に垂下して折り返される中板部外側のそれぞれに折れ線を介して水平に延設される底板部と、この底板部の一端側近傍で底板部巾方向の折れ線を介して垂直に立ち上げる内端面部とそれに統く長円孔が形成される水平に折り曲げる平面部、さらに垂下して折り曲げる外端面部で形成される瓶首保持体を有する瓶首枕と、中央部において底部から垂直に立ち上がって一対となるべき中板部がその中央部に形成した一対の折れ線を頂部としてそれぞれ下方へ折り返され、それぞれ折れ線を介して外側に延設される瓶胴を載置する底板部とこの底板部の一端近傍に前記底板部の巾方向の折れ線を介して瓶底が当接する内端板部が延設され、さらにこれに統いて延設される上板部、外端板部、下板部とで断面口状に折り込まれて形成される台座部を有する中仕切りとを備え、前記中仕切りに台座部を切除するための切り取り線を台座部の内端板部と底板部との折れ線に沿ってそれぞれ形成し、かつ、一方の中板部を切除するための切り取り線を中板部と底板部との折れ線に沿ってそれぞれ形成し、前記瓶首枕の中板部と前記中仕切りの底板部とを重ねてなることを特徴とする化粧箱の共用中仕切り。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は瓶詰製品を包装する化粧箱に係り、更に詳しくは、化粧箱にサイズの異なる数種の瓶詰製品を同一の化粧箱に収納包装して展示することもできるようにした寸法調整可能な中仕切りに関する。

【0002】

10

20

30

40

50

【従来の技術】 従来、ワインや洋酒等の瓶詰製品を収納包装する化粧箱の一つに、製品を保持する中仕切りを備えて製品を収納する内箱と、該内箱の上方から蓋体となる外箱を被せて包装する、いわゆる被せ蓋形式のものがあり、個々の化粧箱が集合包装されて物流され、小売店等で個々の化粧箱を陳列し、さらには、個々の化粧箱が贈答用の包装としても供されている。

【0003】 化粧箱に収納される製品は、単一の製品の場合と異なる製品を組み合わせた場合とがあり、また、収納される製品も1本又は複数本の場合がある。特に複数本の瓶詰製品の組み合わせにあっては、それぞれの製品サイズに合わせた中仕切りを備えた化粧箱が用いられるのが通常である。

【0004】 また、中仕切りの中には製品の形状に合わせた開口部を設けたものもあり、そうしたものの中に瓶詰製品の断面形状（円形、橢円形、正方形、長方形）に沿わせた切込線を設けた台座をもつものもあり、一つの中仕切りで複数製品収納のための汎用性を備えた中仕切りも提案されている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、専用の中仕切りを有する化粧箱にあっては、個々の瓶詰製品毎に化粧箱を準備しておくことが必要であり、また、汎用性を有する化粧箱にあっては、対象製品の最大寸法が基準にとられ、化粧箱自体の寸法を大きくする要因ともなる。

【0006】 化粧箱への製品のセットは、製品製造ライン以外のところでも行われることがある。製造ラインでの作業にあっても、又はその他の場所での作業にあっても、製品個々に対応した化粧箱の製造、保管管理が必要となり、また、化粧箱自体の寸法が大きくなることは、広い保管スペース、作業スペースを要するほか、コストの増大化等の問題が生じることになる。

【0007】 化粧箱にセットされる製品には、瓶形状が極端に異なる製品が組み合わされることもあるが、ワインのように瓶の高さ及び胴径の若干異なるだけのものが対象となる場合もある。

【0008】 本発明はワインのように瓶の高さ及び胴径の若干異なるだけのものが対象となる点に着目して、中仕切りの一部を切り離す構造とすることで瓶の高さ及び胴径に合わせるように寸法調整可能とすることにより、異なった瓶形状であっても同一の化粧箱内に収納できるようにし、よって、内箱とその蓋体となる外箱とを共用できるようにした中仕切りを提供する。

【0009】

【課題を解決するための手段】 本発明にかかる化粧箱の共用中仕切りは、請求項1によれば、内箱に外箱を上方から被せて蓋体とする一方、前記内箱に瓶首保持体を有する仕切り体を収納してなる化粧箱において、瓶首保持

体と底板部とからなる瓶首枕と、瓶胴が当接する底板部

と瓶底が当接する内端板部とさらにこれに統いて延設される上板部、外端板部、下端部とで断面口状に折り込まれて形成される台座部を有する中仕切りとを備え、前記中仕切りに台座部を切除するための切り取り線を台座部の内端板部と底板部との折れ線に沿って形成したことを特徴とする。

【0010】請求項2によれば、請求項1記載の中仕切りであって、底板部の左右両側に延設されて瓶洞が当接する左右側板部がそれぞれ内側板部と外側板部とからなり、前記左右側板部を切除するための切り取り線を、前記底板部と内側板部との折れ線に沿って形成したことを特徴とする化粧箱の共用中仕切り。

【0011】請求項3によれば、請求項2記載の中仕切りであって、左右側板部の外側板部を切除するための切り取り線を、前記左右側板部の外側板部と内側板部との頂部の折れ線に沿って形成したことを特徴とする化粧箱の共用中仕切り。

【0012】請求項4によれば、請求項1記載の中仕切りであって、内箱内の中央部において、中央に一対で形成された折れ線で左右両側に垂下して折り返される中板部外側のそれぞれに折れ線を介して水平に延設される底板部と、この底板部の一端側近傍で底板部巾方向の折れ線を介して垂直に立ち上げる内端面部とそれに統く長円孔が形成される水平に折り曲げる平面部、さらに垂下して折り曲げる外端面部で形成される瓶首保持体を有する瓶首枕と、中央部において底部から垂直に立ち上がって一対となるべき中板部がその中央部に形成した一対の折れ線を頂部としてそれ下方へ折り返され、それぞれ折れ線を介して外側に延設される瓶洞を載置する底板部とこの底板部の一端近傍に前記底板部の巾方向の折れ線を介して瓶底が当接する内端板部が延設され、さらにこれに統いて延設される上板部、外端板部、下板部とで断面口状に折り込まれて形成される台座部を有する中仕切りとを備え、前記中仕切りに台座部を切除するための切り取り線を台座部の内端板部と底板部との折れ線に沿ってそれぞれ形成し、かつ、一方の中板部を切除するための切り取り線を中板部と底板部との折れ線に沿ってそれぞれ形成し、前記瓶首枕の中板部と前記中仕切りの底板部とを重ねてなることを特徴とする。

【0013】

【作用】請求項1によれば、化粧箱に収納包装する瓶の高さが若干異なるときには、瓶底が当接する内端板部及びこれに統く部分を切除することにより、その寸法調整をすることができる。

【0014】請求項2によれば、化粧箱に収納包装する瓶の高さが若干異なるときには、瓶底が当接する台座部を切除し、また、化粧箱に収納包装する瓶の洞径が若干異なるときには、瓶洞が当接する左右側板部を切除することにより、その寸法調整をすることができる。

【0015】請求項3によれば、化粧箱に収納包装する

瓶の高さが若干異なるときには、瓶底が当接する台座部を切除し、また、化粧箱に収納包装する瓶の洞径が若干異なるときには、瓶洞が当接する左右側板部を形成する内側板又は外側板の一方又は両方を切除することにより、その寸法調整をすることができる。

【0016】請求項4によれば、化粧箱に収納包装する瓶の高さが若干異なるときには、台座部を切除し、また、化粧箱に収納包装する瓶の洞径が若干異なるときには、底板部を切除することにより、その寸法調整をすることができる。したがって、これらの寸法調整の選択によって、異なる製品を収納することができる。また、いずれの場合によっても、中仕切りを取り外すことで寸法調整をすることができる。

【0017】

【実施例】以下本発明の実施例を図に基づき説明する。図1から図5は本発明の第1実施例であり、この第1実施例は、図1に示すように、内箱1内に中仕切り2と瓶首枕3が収納されて構成される。内箱1には、図示しない外箱が上方から被せられて蓋体となる。内箱1と外箱20はそれぞれ折疊み形成平箱型かつ被せ蓋式の化粧箱であるが、そうでなくともよい。中仕切り2は収納する瓶洞が当接して内箱1内でガタツキを生じないように固定するものであり、また、瓶首枕3は瓶首を嵌め込んで固定するものである。中仕切り2と瓶首枕3の長手寸法は、併せて内箱1の長尺内法Aと同一寸法となるように形成されている。なお、中仕切り2は図4に、瓶首枕3は図5に、展開図を示すように、それぞれ段ボール等から形成され、Eフルート段ボールが用いられている。

【0018】中仕切り2は、図2に立体図及び図4に展開図を示すように、瓶洞を載置する底板部2aの左右両側に左右側板部として、折れ線4を介して垂直に上方へ立ち上がる内側板部2bと、内側板部2bの頂部2cの折れ線5を介して下方へ折り返される外側板部2dとが延設され、また、底板部2aの長手方向側の一端部近傍から同横巾で折れ線6を介し垂直に上方へ立ち上がり、瓶底が当接する内端板部2eと、内端板部2eの頂部2fの折れ線7を介して水平方向へ延設され、内外側板部2b、2dの端部まで伸びる上板部2gと、上板部2gの頂部2hから折れ線8を介し直交して下方へ垂下する外端板部2iと、その外端板部2iから水平方向の内方へ折れ線9を介し延設される下板部2jとが延設されて台座部が形成されている。内端板部2eと外端板部2iは同一形状であり、また、下板部2jは上板部2gと同一形状である。折れ線4、5、6は切除することができるミシン目等の切り取り線からなり、ミシン目は一般的なスリット部、非スリット部が同じ寸法のもの、スリットを長くしたものであってもよいが、中仕切りからの切除及び切除後の破断外観、さらには包装中の強度の観点から、底板部巾方向の折れ線に沿って形成されるミシン目はスリット部20mm、非スリット部5mmのピッチ

40

40

40

40

50

で、長尺方向の折れ線に沿って形成されるミシン目はスリット部2.5mm、非スリット部5mmのピッチで形成することが望ましい。また、底板部2aの巾は内箱1の短尺内法Bよりも左右側板部の厚みの分小さくて、内箱1に収納する最小径の瓶の胴径寸法と略同一である。なお、左右側板部は内側板部2b、2bのみからなるものでもよい。なお、図4において、内端板部2eの基部、すなわち、折れ線6から内側板部2bの上端部までは切込線である。

【0019】瓶首枕3は、図3に立体図及び図5に展開図を示すように、内箱1の短尺内法Bと略同一巾の長方形の段ボール等の一端部近傍中央に長円孔11を開設し、この長円孔11の円弧部11aから横断する折れ線12、13が形成され、また、折れ線13近傍に瓶の肩部の高さを形成する折れ線14が形成されている。折れ線12、13間の平面部3aは水平に、折れ線12から一端部までの外端面部3bと折れ線13、14間の内端面部3cはそれぞれ垂直に、また、内端面部3cから他端部までの底板部3dは水平になる。長円孔11の巾は最小径の瓶首の直径よりも若干大きくなっている。また、長円孔11内に円弧部11a、11a間で押え板3eが中央の切取線16にて分離形成され、また、この円弧部11a、11a間で左右両側にそれぞれ側板部3fが形成されている。

【0020】瓶首枕3の底板部3dは内箱1の底部に載置され、また、中仕切り2の底板部2aは底板部3dに重ねて配置される。したがって、内箱1の底部は3重底となる。

【0021】そこで、上記第1実施例における化粧箱に、サイズの異なる瓶を収納包装する場合につき説明すると、図6(A)に示すように、瓶15の高さが低めの場合には中仕切り2をそのまま用いる。そして、図6(B)に示すように、瓶16の胴径は瓶15と同じであるが高さが若干高めの場合には、中仕切り2の折れ線6に沿って形成するミシン目に沿って内端板部2e、上板部2g、外端板部2i及び下板部2jで形成される台座部2xを切除するのである。さらに、図6(C)に示すように、瓶17の胴径及び高さが瓶15、16と異なる場合には、中仕切り2そのものを用いないで内箱1内にそのまま収納する。この場合、瓶首枕3には底板部3dが内箱1の底部に載置されているので、見映えが低下することはない。

【0022】さらに、図7において、瓶18の胴径が前記瓶15、16、17と異なるときは、図7(A)に示すように、折れ線5に形成されるミシン目に沿って外側板部2dを切り取り、又は、折れ線4に形成するミシン目に沿って内側板部2b及び外側板部2dを切り取る。すなわち、内外側板部2b、2dはそれぞれ段ボール等の同一肉厚寸法を有するから、外側板部2dの一方又は両方、又は、内外側板部2b、2dの一方又は両方をそ

れぞれ取り去ることにより、瓶の胴径寸法に合うように寸法調整をするのである。そして、図7(B)に示すように、瓶19の胴径は前記瓶18と同一であるが高さが異なるときは、折れ線6に沿って内端板部2e、上板部2g、外端板部2i及び下板部2jからなる台座部を切り取ることにより寸法調整するのである。

【0023】図8から図13は本発明の第2実施例であり、この第2実施例は、図8に示すように、化粧箱を構成する内箱10内に、2本の瓶をそれぞれ固定するための中仕切り20と瓶首枕30が収納されて構成される。中仕切り20は第1実施例同様に、収納する瓶胴が当接して内箱1内でガタツキを生じないように固定するものであり、また、瓶首枕30は瓶首を嵌め込んで固定するものである。中仕切り20と瓶首枕30の長手寸法は、併せて内箱1の長尺内法Aと同一寸法となるように形成されている。なお、中仕切り20は図11に、瓶首枕30は図12に、展開図を示すように、それぞれ段ボール等から形成される。瓶首枕30はEフルート、中仕切り20はBフルートが用いられる。

【0024】中仕切り20は、図9に立体図及び図11に展開図を示すように、内箱1内の中央部において底部から垂直に立ち上がって一対となるべき中板部21が、その中央部に形成した一対の折れ線41、41を頂部としてそれぞれ下方へ折り返されるようになっており、その一対の中板部21からそれぞれ折れ線42を介して外側に、瓶胴が載置される底板部22が延設され、この底板部22の一端側近傍に底板部巾方向の折れ線43を介して瓶底が当接する内端板部23が延設され、この内端板部23から折れ線44を介して上板部24が延設され、この上板部24から折れ線45を介して外端板部25が延設され、この外端板部25から折れ線46を介して下板部26が延設されて台座部2xが形成される。内端板部23と外端板部25は同一形状であり、また、下板部26は上板部24と同一形状である。底板部22、22は内箱1の底部に配置され、また、中板部21はその底板部22、22から上方へ垂直に立ち上がる。折れ線42、43はミシン目等の切り離し可能な切り取り線である。ミシン目は一般的なスリット部、非スリット部が同じ寸法のもの、スリットを長くしたものであってもよいが、中仕切りからの切除及び切除後の破断外観、さらには包装中の強度の観点から、底板部巾方向の折れ線に沿って形成されるミシン目はスリット部1.3mm、非スリット部6mmのピッチで、長尺方向の折れ線に沿って形成されるミシン目はスリット部2.5mm、非スリット部5mmのピッチで形成することが望ましい。

【0025】瓶首枕30は、図10に立体図及び図12に展開図を示すように、中央に一対で形成された折れ線50、50で左右両側に垂下して折り返される中板部31の外側に折れ線51を介して水平に延設される底板部32と、この底板部32の一端側近傍で底板部巾方向の

折れ線52を介して垂直に上方へ立ち上がり、瓶の肩部を形成する内端面部33と、瓶首を嵌め込んで固定する長円孔53を形成した平面部34と、長円孔53の内側に形成された押え板35と、この押え板35に対応して平面部34の外側に形成された側板部36及び平面部34から延設された外端面部37とななる。なお、図1において、内端板部23の基部、すなわち、折れ線43から内板部21の上端部までは切込線である。

【0026】瓶首枕30の底板部32は内箱10の底部に載置され、また、中仕切り20の底板部22は底板部32に重ねて配置される。このとき、瓶首枕の中板部と中仕切りの中板部とは重ねられた状態となっている。したがって、内箱1の底部は3重底となる。

【0027】そこで、上記第2実施例における瓶の収納包装に付き説明すると、図13(A)に示したように、同一胴径及び高さの同種の2本の瓶60を収納包装すべきときは、前記中仕切り20をそのまま用いる。そして、図13(B)に示すように、前記瓶60と同一胴径及び高さの瓶60と、これらと胴径は同じであるが高さの異なる瓶61を収納包装するときは、中仕切り20のいずれか一方の折れ線43に形成されるミシン目に沿って内端板部23、上板部24、外端板部25及び下板部26、即ち台座部2xを切り取るのである。さらに、図13(C)に示すように、前記瓶61とは高さが略同じで胴径が大きい瓶62を収納包装するときは、中仕切り20そのものを取り去って内箱10内にそのまま収納包装する。この場合、瓶首枕30には底板部32が内箱10の底部に載置されているので、見映えが低下することはない。

【0028】また、図示はしていないが、中仕切り折れ線42に形成したミシン目に沿って一方の底板部を切除することで、更に胴径の異なる製品にも対応できる。さらに、前記実施例1、2において、外箱を被せる前に内箱に収納された製品のうえに合成樹脂製発泡シート等を押え体として用いることで、製品のガタツキ、搖れを防止し、製品の品質はもとより、化粧箱中仕切り自体の強度が損なわれることが防止できる。

【0029】かくして、本発明の実施例は、瓶の高さ及び胴径が若干異なる場合に、中仕切り2、20の内端板部2e、23及びこれに競く台座部、又は、内側板部2

10 30 40

b及び外側板部2dからなる左右両側板部の一方又は両方を切除してそれらに適合させ、収納包装のための中仕切り2、20の寸法調整をすることができる。

【0030】

【発明の効果】以上説明したこの発明によれば、瓶の胴径又は高さが若干異なるワイン等の瓶詰製品を化粧箱に収納包装する場合に、中仕切りをそれらに合わせて寸法調整することができるので、一種の内箱と外箱及び中仕切りで複数の組み合わせの包装をする化粧箱を得ることができ、したがって、汎用性を有し、作業管理も容易であり、かつ、包装のコスト低下を図ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施例を示す斜視図。

【図2】第1実施例の中仕切りを示す斜視図。

【図3】第1実施例の瓶首枕を示す斜視図。

【図4】第1実施例の中仕切りの展開図。

【図5】第1実施例の瓶首枕の展開図。

【図6】第1実施例の作用説明図。

【図7】同じく第1実施例の作用説明図。

【図8】本発明の第2実施例を示す斜視図。

【図9】第2実施例の中仕切りを示す斜視図。

【図10】第2実施例の瓶首枕を示す斜視図。

【図11】第2実施例の中仕切りの展開図。

【図12】第2実施例の瓶首枕の展開図。

【図13】第2実施例の作用説明図。

【符号の説明】

1, 10…内箱

2, 20…中仕切り

2a, 22…底板部

2b…内側板部

2d…外側板部

2e, 23…内端板部

2g, 24…上板部

2x…台座部

2i, 25…外端板部

2j, 26…下板部

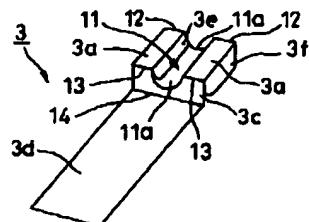
3, 30…瓶首枕

4, 5, 6, 7, 8, 9, 41, 42, 43, 44, 4

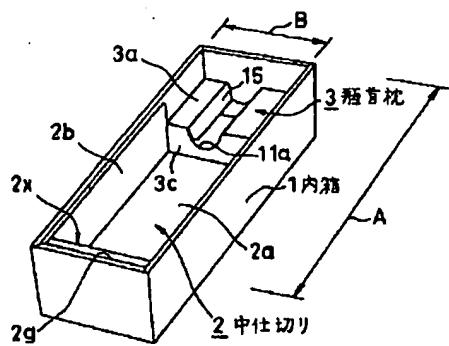
5, 46…折れ線

21…中板部

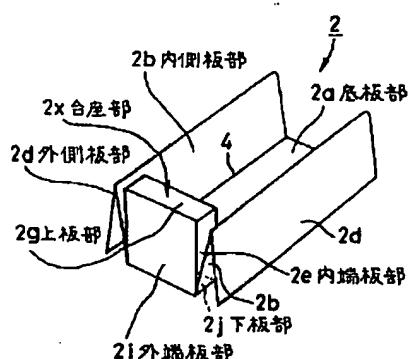
【図3】



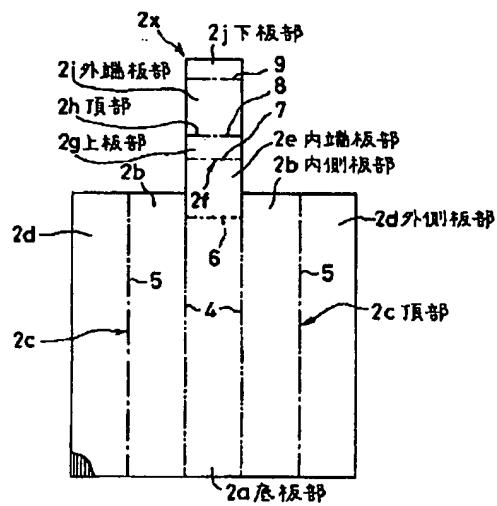
【図1】



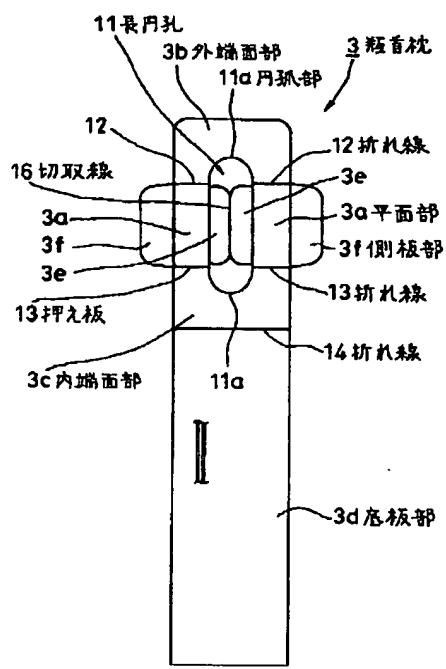
【図2】



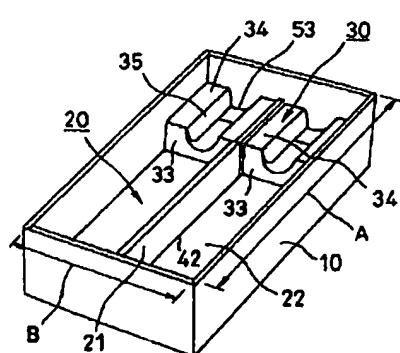
【図4】



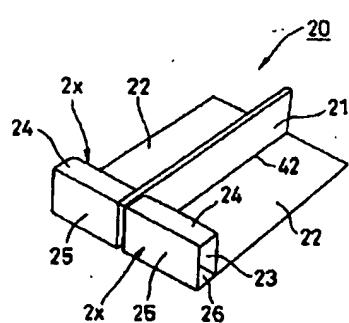
【図5】



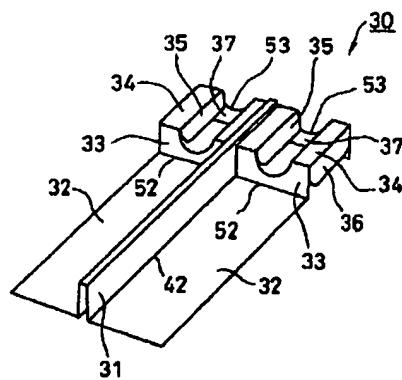
【図8】



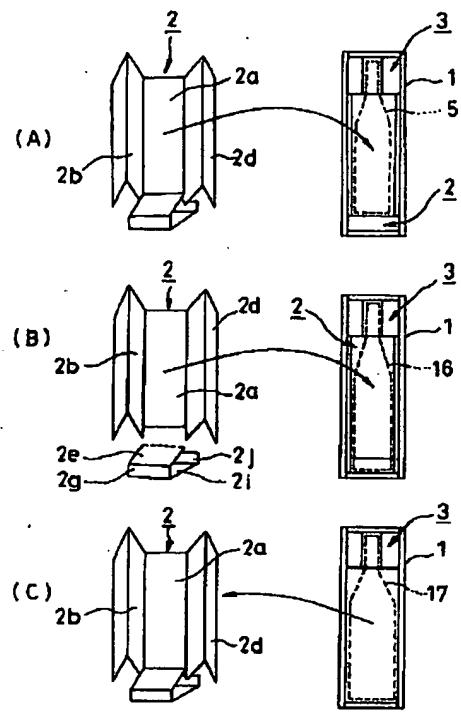
【図9】



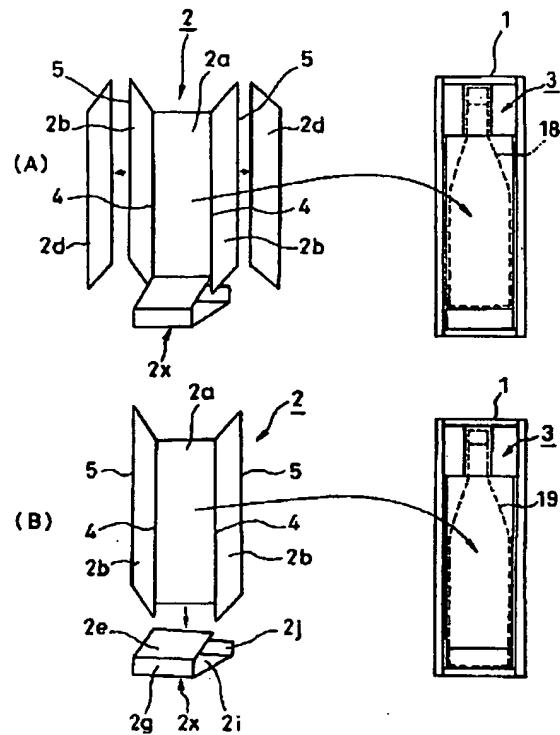
【図10】



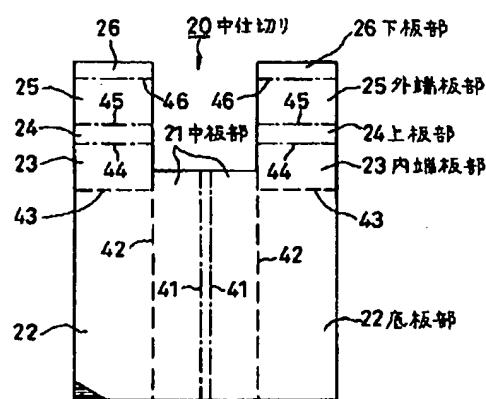
【図6】



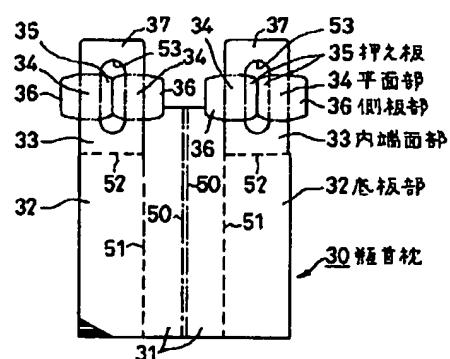
【図7】



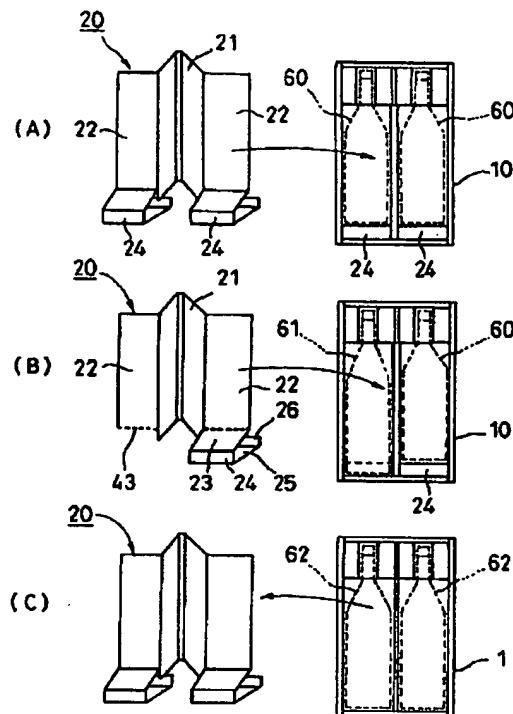
【図11】



【図12】



【図13】



【手続補正書】

【提出日】平成5年12月28日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項4

【補正方法】変更

【補正内容】

【請求項4】 請求項1記載の中仕切りであって、内箱内の中央部において、中央に一对で形成された折れ線で左右両側に垂下して折り返される中板部外側のそれぞれに折れ線を介して水平に延設される底板部と、この底板部の一端側近傍で底板部巾方向の折れ線を介して垂直に立ち上げる内端面部とそれに続く長円孔が形成される水平に折り曲げる平面部、さらに垂下して折り曲げる外端面部で形成される瓶首保持体を有する瓶首枕と、中央部において底部から垂直に立ち上がって一对となるべき中板部がその中央部に形成した一对の折れ線を頂部としてそれぞれ下方へ折り返され、それぞれ折れ線を介して外側に延設される瓶胴を載置する底板部とこの底板部の一端近傍に前記底板部の巾方向の折れ線を介して瓶底が当接する内端板部が延設され、さらにこれに続いて延設される上板部、外端板部、下板部とで断面口状に折り込まれて形成される台座部を有する中仕切りとを備え、前記

中仕切りに台座部を切除するための切り取り線を台座部の内端板部と底板部との折れ線に沿ってそれぞれ形成し、かつ、一方の底板部を切除するための切り取り線を中板部と底板部との折れ線に沿ってそれぞれ形成し、前記瓶首枕の中板部と前記中仕切りの中板部とを重ねてなることを特徴とする化粧箱の共用中仕切り。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正内容】

【0009】

【課題を解決するための手段】本発明にかかる化粧箱の共用中仕切りは、請求項1によれば、内箱に外箱を上方から被せて蓋体とする一方、前記内箱に瓶首固定部を有する仕切り体を収納してなる化粧箱において、瓶首保持体と底板部とからなる瓶首枕と、瓶胴が当接する底板部と瓶底が当接する内端板部とさらにこれに続いて延設される上板部、外端板部、下板部とで断面口状に折り込まれて形成される台座部を有する中仕切りとを備え、前記中仕切りに台座部を切除するための切り取り線を台座部の内端板部と底板部との折れ線に沿って形成したことを

特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正内容】

【0012】請求項4によれば、請求項1記載の中仕切りであって、内箱内の中央部において、中央に一对で形成された折れ線で左右両側に垂下して折り返される中板部外側のそれぞれに折れ線を介して水平に延設される底板部と、この底板部の一端側近傍で底板部巾方向の折れ線を介して垂直に立ち上げる内端面部とそれに続く長円孔が形成される水平に折り曲げる平面部、さらに垂下して折り曲げる外端面部で形成される瓶首保持体を有する瓶首枕と、中央部において底部から垂直に立ち上がって一对となるべき中板部がその中央部に形成した一对の折れ線を頂部としてそれぞれ下方へ折り返され、それぞれ折れ線を介して外側に延設される瓶洞を載置する底板部とこの底板部の一端近傍に前記底板部の巾方向の折れ線を介して瓶底が当接する内端板部が延設され、さらにこれに続いて延設される上板部、外端板部、下板部とで断面口状に折り込まれて形成される台座部を有する中仕切りとを備え、前記中仕切りに台座部を切除するための切り取り線を台座部の内端板部と中板部との折れ線に沿ってそれぞれ形成し、かつ、一方の底板部を切除するための切り取り線を中板部と底板部との折れ線に沿ってそれぞれ形成し、前記瓶首枕の中板部と前記中仕切りの中板部とを重ねてなることを特徴とする。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正内容】

【0015】請求項3によれば、化粧箱に収納包装する瓶の高さが若干異なるときには、瓶底が当接する台座部を切除し、また、化粧箱に収納包装する瓶の胴径が若干異なるときには、瓶洞が当接する左右側板部を形成する内側板部又は外側板部の一方又は両方を切除することにより、その寸法調整をすることができる。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正内容】

【0021】そこで、上記第1実施例における化粧箱に、サイズの異なる瓶を収納包装する場合につき説明すると、図6(A)に示すように、瓶15の高さが低めの場合には中仕切り2をそのまま用いる。そして、図6(B)に示すように、瓶16の胴径は瓶15と同じであるが高さが若干高めの場合には、中仕切り2の折れ線6

に形成するミシン目に沿って内端板部2e、上板部2g、外端板部2i及び下板部2jで形成される台座部2xを切除するのである。さらに、図6(C)に示すように、瓶17の胴径及び高さが瓶15、16と異なる場合には、中仕切り2そのものを用いないで内箱1内にそのまま収納する。この場合、瓶首枕3の底板部3dが内箱1の底部に載置されているので、見映えが低下することはない。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

【補正内容】

【0025】瓶首枕30は、図10に立体図及び図12に展開図を示すように、中央に一对で形成された折れ線50、50で左右両側に垂下して折り返される中板部31の外側に折れ線51を介して水平に延設される底板部32と、この底板部32の一端側近傍で底板部巾方向の折れ線52を介して垂直に上方へ立ち上がり、瓶の肩部を形成する内端面部33と、瓶首を嵌め込んで固定する長円孔53を形成した平面部34と、長円孔53の内側に形成された押え板35と、この押え板35に対応して平面部34の外側に形成された側板部36及び平面部34から延設された外端面部37とななる。なお、図11において、内端板部23の基部、すなわち、折れ線43から中板部21の上端部までは切込線である。

【手続補正7】

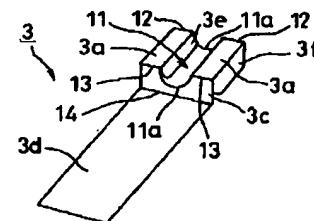
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図3

【補正方法】変更

【補正内容】

【図3】



【手続補正8】

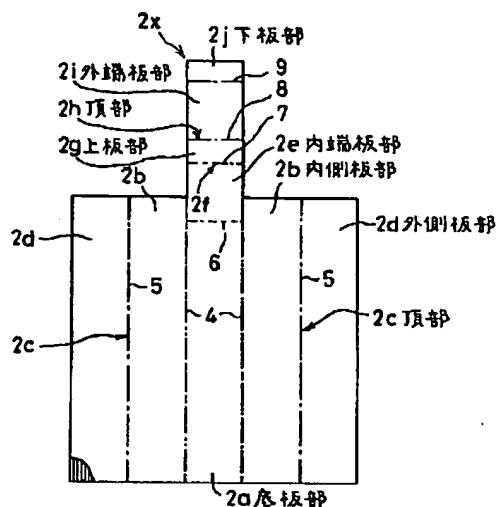
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図4

【補正方法】変更

【補正内容】

【図4】



【手続補正9】

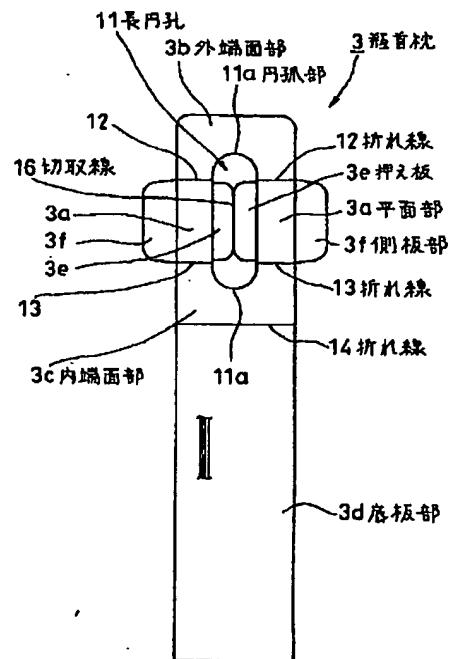
【補正対象害類名】図面

【補正対象項目名】図5

【補正方法】変更

【補正内容】

〔圖5〕



【手続補正 10】

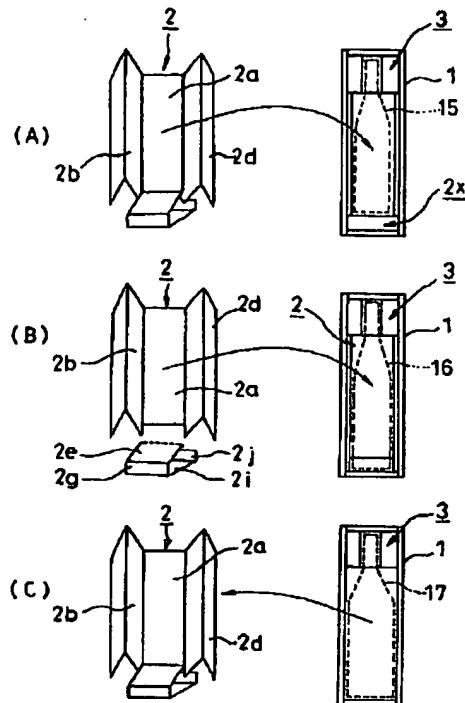
【補正対象費類名】 図面

【補正対象項目名】図6

【補正方法】変更

【補正內容】

[圖 6]



【手続補正 1 1】

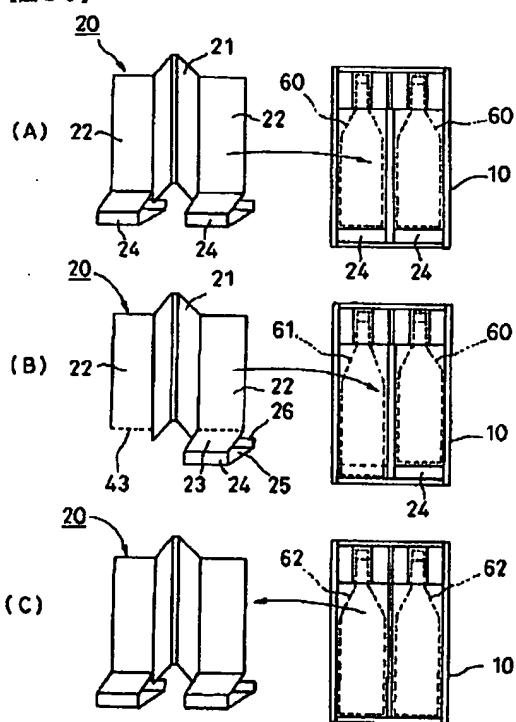
【補正対象書類名】 図面

【補正対象項目名】図1-3

【補正方法】変更

【補正内容】

〔图13〕



【手続補正書】

【提出日】平成6年1月10日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正内容】

【0012】請求項4によれば、請求項1記載の中仕切りであって、内箱内の中央部において、中央に一対で形成された折れ線で左右両側に垂下して折り返される中板部外側のそれぞれに折れ線を介して水平に延設される底板部と、この底板部の一端側近傍で底板部巾方向の折れ線を介して垂直に立ち上げる内端面部とそれに続く長円孔が形成される水平に折り曲げる平面部、さらに垂下して折り曲げる外端面部で形成される瓶首保持体を有する

瓶首枕と、中央部において底部から垂直に立ち上がって一対となるべき中板部がその中央部に形成した一対の折れ線を頂部としてそれぞれ下方へ折り返され、それぞれ折れ線を介して外側に延設される瓶胴を載置する底板部とこの底板部の一端近傍に前記底板部の巾方向の折れ線を介して瓶底が当接する内端板部が延設され、さらにこれに続いて延設される上板部、外端板部、下板部とで断面口状に折り込まれて形成される台座部を有する中仕切りとを備え、前記中仕切りに台座部を切除するための切り取り線を台座部の内端板部と底板部との折れ線に沿ってそれぞれ形成し、かつ、一方の底板部を切除するための切り取り線を中板部と底板部との折れ線に沿ってそれぞれ形成し、前記瓶首枕の中板部と前記中仕切りの中板部とを重ねてなることを特徴とする。